

Quick調査レポート「平成30年度診療報酬改定に関する調査」

Topics

- ✓ 今回の診療報酬改定については多くの医師が**情報収集**を行い（HP：8割、GP：9割）、特にGPでは3割の医師が「積極的に情報収集している」と回答した。
- ✓ 診療報酬改定の**情報源**は「医療系の情報サイト」が最も多く8割にのぼった。なお「製薬会社（MR）」は1～2割にとどまった。
- ✓ **関心がある論点**として回答が多かった項目は、HPでは「入院料の再編」、GPでは「かかりつけ医機能推進」などだった。
- ✓ **薬価制度の抜本改革**は、提示した項目の多くで「どちらともいえない」とする医師が多かったが「長期収載品の薬価引き下げ」については評価する回答が多かった。

調査背景・目的

- ✓ 平成30年度は診療報酬と介護報酬が同時改定となる節目の年である。また「2025年問題」を前に社会保障財政をいかに効率的で有効なものとして維持できるかが注目されている。
- ✓ 国や各業界団体の見解が明らかにされる中、医療の中心を担う医師自身は今回の診療報酬改定をどのようにとらえているのか探った。

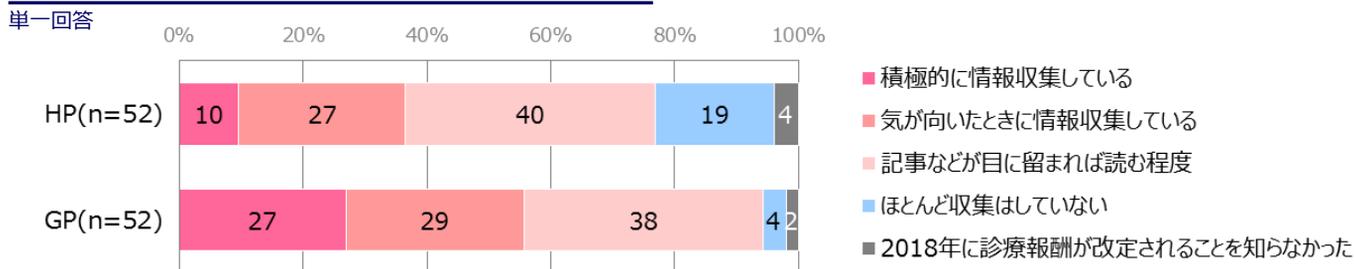
調査概要

調査方法：インターネット調査 *TenQuick使用
 調査地域：全国
 調査対象：医師（※診療科問わず）

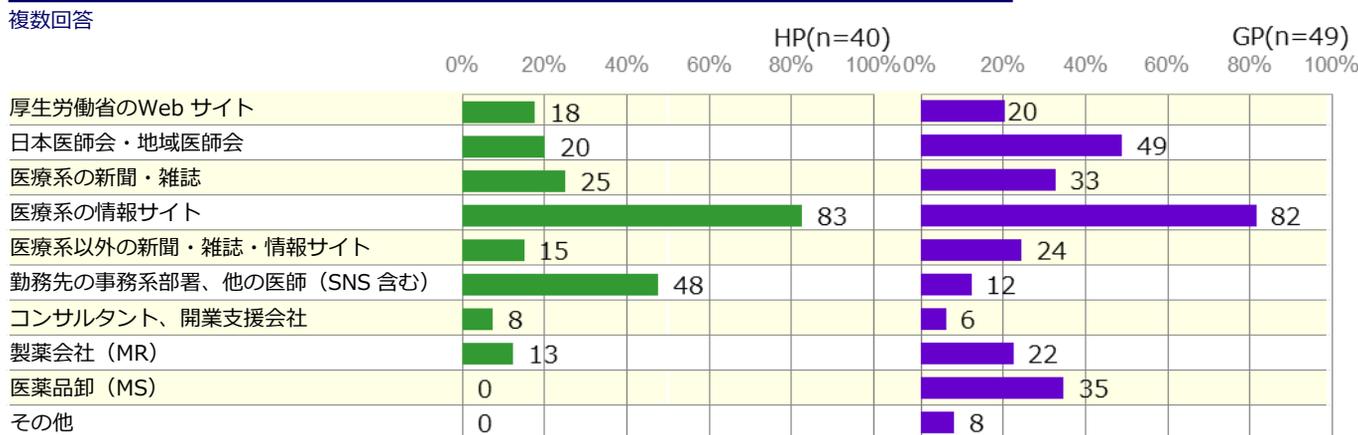
有効回答：104s（HP：52s、GP：52s）
 ※GPは19床以下
 調査期間：2018年2月19日～2月21日
 調査主体：株式会社アンテリオ Quick Survey室

調査結果

平成30年度診療報酬改定の認知と情報収集

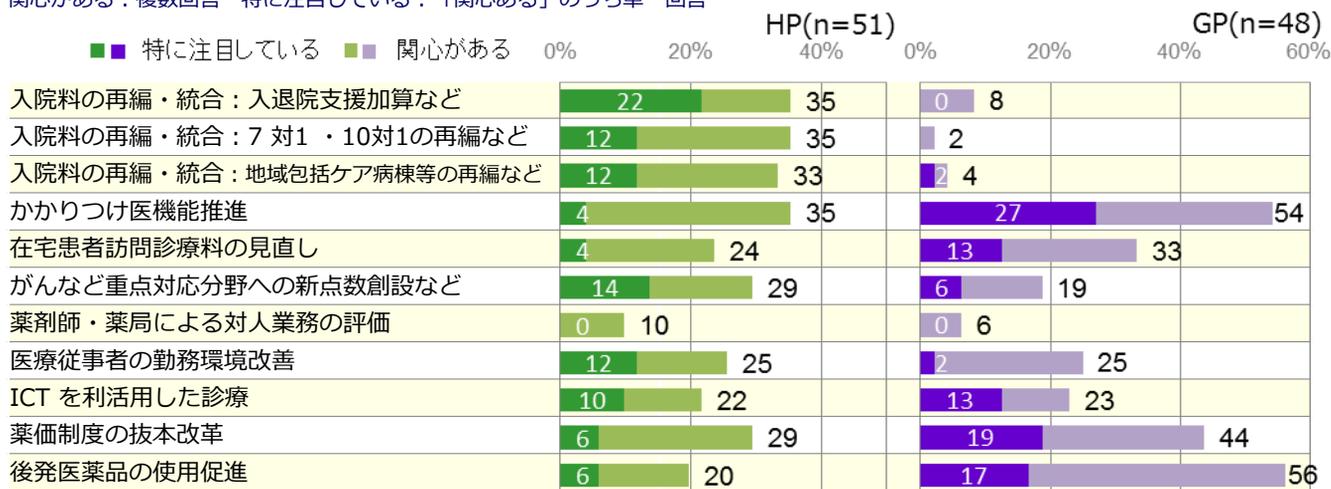


診療報酬改定の情報源 [ベース：平成30年度診療報酬改定について情報収集している医師]



診療報酬改定で関心がある論点 [ベース：関心ある論点がある医師]

関心がある：複数回答 特に注目している：「関心ある」のうち単一回答



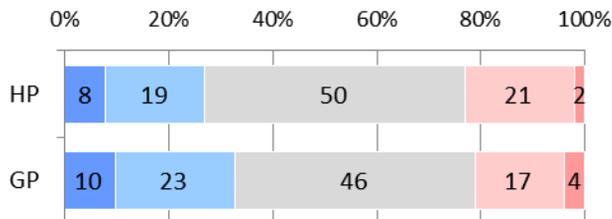
薬価制度改革の評価

単一回答

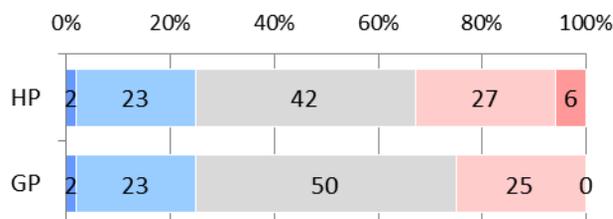
■ 全く評価しない ■ あまり評価しない ■ どちらともいえない ■ やや評価する ■ 非常に評価する

HP(n=52), GP(n=52)

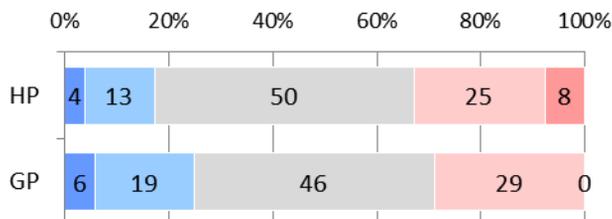
毎年薬価改定



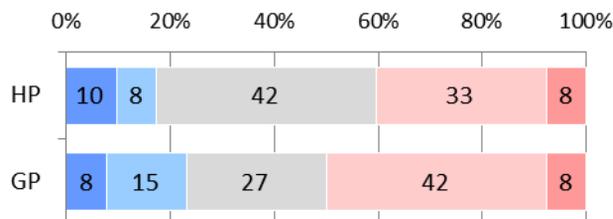
新薬創出加算制度の対象品目見直し等



費用対効果評価の導入



長期収載品の薬価引き下げ



自由回答（抜粋） ※アンテリオの考えを反映するものではありません

保険財政への危機感

国民皆保険を存続させていくことができるような改定を望む
病院・診療所は稼ごう稼ごうと評価される部分をますます重視するが、これで無駄な医療費が削減され医療がよくなるのか疑問を感じている。

診療報酬改定への要望：総合的な観点から

同じ診療行為に対しても質は問わないという印象が強い。質の良い診療により多くの報酬を与えるようなシステムができてほしい。
医療の現場に即した改定を望む。改定ごとに複雑化しており、もっと簡潔な診療報酬体系にしてほしい。
わかり易く改訂を知らせてほしい

診療報酬改定への要望：具体的な項目について

診察自体をもっと評価してほしい。診察のみの診断でも加算すべき。
規定上仕方ないのかもかもしれないが、非常勤や代務医師でも、一定の資格を持っている場合に、その勤務実態のある日や時間帯は加算がとれるといいとおもう
検査費用も検討するべき。
矛盾に満ちた項目を早く処理してほしい（外来管理加算など）

薬価関係

国の医療費が年々急増していることを懸念しています。そういう意味で費用対効果について考えることは重要だと思います
最近非常に高すぎる薬が多すぎるのが気がかりです
過剰な投薬を取り締まってほしい
薬を飲み過ぎている高齢者が多すぎます。減薬したら診療報酬をもらえるのをもっと浸透させるべき。
高すぎる薬価は早めにみなおし、介護報酬に充てるなど、限りある資源を適切に分配すべき
抗生剤の適切使用でインセンティブをつけるのは、よい方法だと思います。
極端に高いものについては積極的に下げる必要がある。特に抗がん剤。
初めから医療費削減という観点から薬価改正等が実施されることに反対する。医療機関の収入も増やすべきである。
オプジーボなど、保険財政に大きく負担を与える高価な薬は、薬価を抑制すべきである。少なくとも欧米並みに。
薬価は下がってもよいが、診療報酬本体は上げて欲しい。
医療費抑制のため、後発品推奨はやむを得ないが、新薬開発とのバランスも重要と考える

